

HiKOKI

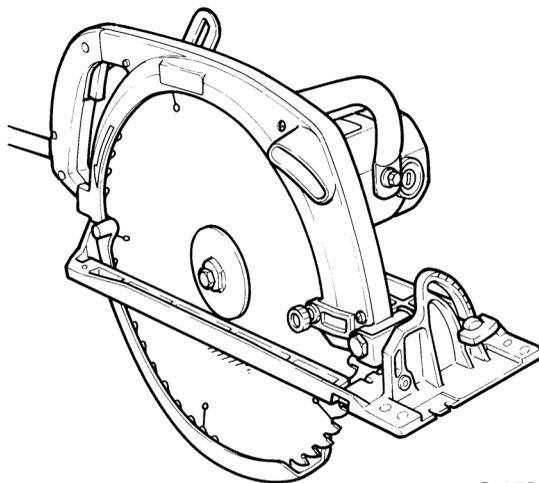
ブレーキ付
丸のこ

335 mm C 13MA

382 mm C 15MA

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



C 15MA

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
丸のこの使用上のご注意	5
各部の名称	8
仕様	9
標準付属品	9
別売部品	10
用途	11
作業前の準備	12
ご使用前に	14
切り方	17
のこ刃の取付け・取りはずし	19
定規について	20
保守・点検	21
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

警告

- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
 - 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
 - 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
 - 手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
 - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いてください。**
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
 - 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ **不意な始動は避けてください。**
 - 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - さし込みプラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

警告

- ⑱ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。**
- 屋外で使用する場合、キャプタイヤコードまたはキャプタイヤケーブルの継ぎ（延長）コードを使用してください。
- ⑲ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。**
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑳ 損傷した部品がないか点検してください。**
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
- この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
- ㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。**
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

丸のこの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、丸のことして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

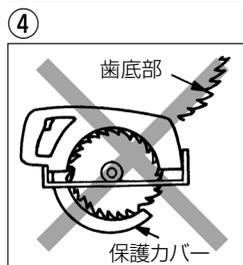
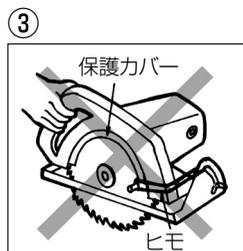
⚠警告

- ① **使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因になります。
- ② **必ずアース（接地）してください。**
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。
(詳細は、12 ページの「1. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」の項をご参照ください。)
- ③ **保護カバーは、絶対に固定しないでください。**
また、円滑に動くことを確認してください。
のこ刃が露出したままですと、けがの原因になります。
- ④ **のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。また、歯底径が下記の値以下ののこ刃は使用しないでください。**
けがの原因になります。
使用できるのこ刃は、

C 13MA の場合	外径 335 mm	} です。
C 15MA の場合	外径 382 mm	

また、のこ刃は、歯底径が

C 13MA の場合	293 mm 以下	} は、使用しないでください。
C 15MA の場合	350 mm 以下	
- ⑤ **切断する材料は、安定性のよい台に置いてください。**
台が不安定ですと、けがの原因になります。
- ⑥ **切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。**
のこ刃がはさみつけられると、けがの原因になります。

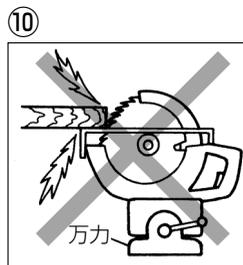


⚠警告

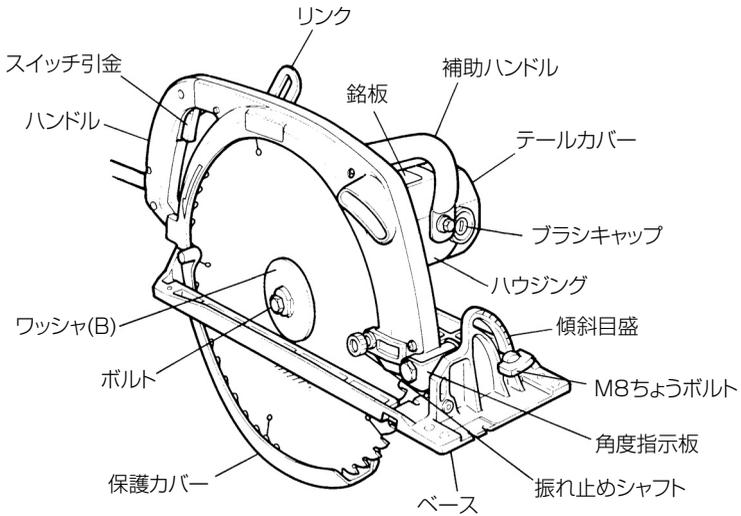
- ⑦ 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台を設けてください。また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。
このような台がないと、けがの原因になります。
(13ページの図7-2を参照してください。)
- ⑧ 使用中は、本体を確実に保持してください。
確実に保持していないと、本体が振れ、けがの原因になります。
- ⑨ 使用中は、のこ刃や回転部、切粉の排出部に手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。
- ⑩ 切断途中で、のこ刃を回転させたまま本体を戻そうとすると、強い反発力が生じ、けがの原因になります。
その場合、スイッチを切り、回転が完全に止まってから本体を持ち上げるようにしてください。
- ⑪ ベンチスタンドを使用する場合は、スタンドを固定してください。また、接触予防装置を必ず取り付けてください。
ベンチスタンドがぐらついたり、接触予防装置がないと、けがの原因になります。
- ⑫ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときには、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑬ 誤って落としたり、ぶつけたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑭ 継ぎ(延長)コードを使用するときは、アース線を備えた3心キャブタイヤケーブルを使用してください。
アース線のない2心コードですと、感電の原因になります。
- ⑮ C15MAの場合、のこ刃の回転中に振れ止めシャフトを調整しないでください。
けがの原因になります。
(16ページの(5)項を参照してください。)

⚠注意

- ① 刃物類（のこ刃など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
のこ刃が破損し、けがの原因になります。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
- ④ 作業前に、人のいない方向にのこ刃をむけて空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
異常があると、けがの原因になります。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
機体を落としたりし、けがの原因になります。
- ⑥ 切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。
強い反発力が生じ、けがの原因になります。
- ⑦ 材料に釘などの異物がないことを確認してください。
刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。
- ⑧ 切断しようとする材料の前方に手を置いたり、コードを材料の上に乗せたまま作業しないでください。
手を切ったり、コードを切断し、感電の恐れがあります。
- ⑨ 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。
感電の恐れがあります。
- ⑩ 本体を、万力などで保持した使い方はしないでください。
不意の接触などで、けがの原因になります。
- ⑪ 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。
材料や機体などを落としたときなど、事故の原因になります。
- ⑫ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
けがの原因になります。

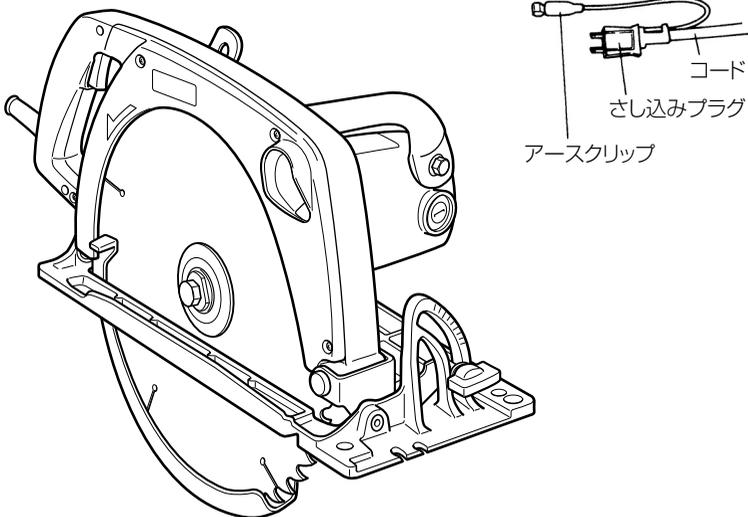


各部の名称



C 15MA

図 1 - 1



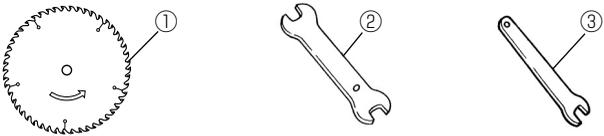
C 13MA

図 1 - 2

仕 様

形 名		C 13MA	C 15MA
項 目			
使 用 電 源		単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V	
切込み 深 さ	最 大	126 mm (4 寸 2 分)	143 mm (4 寸 7 分強)
	最 小	22.5 mm	23 mm
の こ 刃 寸 法		外径 335 mm × 穴径 25.4 mm (穴径 25 mm ののこ刃も使用可能)	外径 382 mm × 穴径 25.4 mm (穴径 25 mm ののこ刃も使用可能)
無 負 荷 回 転 数		2,800 min ⁻¹ {回/分}	2,300 min ⁻¹ {回/分}
全 負 荷 電 流		12 A	14 A
消 費 電 力		1,140 W	1,330 W
モ ー タ ー		単相直巻整流子モーター	
質 量		9.8 kg (コードを除く)	11.3 kg (コードを除く)
コ ー ド		アースクリップ付 3 心キャブタイヤケーブル 5 m	

標準付属品

C 13MA C 15MA チップソー付	 <p style="text-align: center;">図 2 - 1</p> <p>① チップソー (本体装着) 1 枚</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>寸 法</th> <th>外 径</th> <th>アサリ幅</th> <th>のこ身厚さ</th> <th>歯数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C 13MA 用</td> <td>335 mm</td> <td>2.5 mm</td> <td>1.8 mm</td> <td>50 枚</td> </tr> <tr> <td>C 15MA 用</td> <td>382 mm</td> <td>2.5 mm</td> <td>1.8 mm</td> <td>50 枚</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 両口スパナ 1 個 ③ 片口スパナ 1 個</p>	寸 法	外 径	アサリ幅	のこ身厚さ	歯数	C 13MA 用	335 mm	2.5 mm	1.8 mm	50 枚	C 15MA 用	382 mm	2.5 mm	1.8 mm	50 枚
	寸 法	外 径	アサリ幅	のこ身厚さ	歯数											
C 13MA 用	335 mm	2.5 mm	1.8 mm	50 枚												
C 15MA 用	382 mm	2.5 mm	1.8 mm	50 枚												
C 13MA (N) C 15MA (N) のこ刃別売	 <p style="text-align: center;">図 2 - 2</p> <p>① 両口スパナ 1 個 ② 片口スパナ 1 個</p>															

別売部品

（別売部品は生産を打ち切る場合があります。）

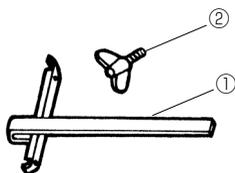


図 3 - 1

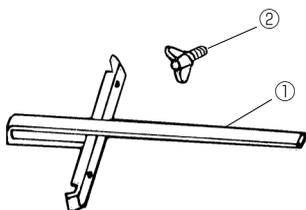


図 3 - 2

警告

•別売部品をご使用の際も、保護メガネを使用してください。

1. ガイド (M6 ちょうボルト付)

C 13MA 用……………図 3 - 1

C 15MA 用……………図 3 - 2

① ガイド

② M6 ちょうボルト

使用方法は 16 ページ (6) 項「ガイド (別売部品) の調整」の項をご参照ください。

2. 縦横兼用のこ刃 (図 4)

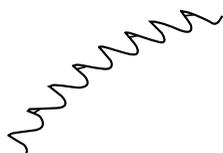


図 4

用途 木材一般の切断

寸法	外径	アサリ幅	のこ身厚さ	歯数
C 13MA 用	335 mm	2.45 mm	1.45 mm	70 枚
C 15MA 用	382 mm	2.65 mm	1.45 mm	80 枚

3. 縦びき用のこ刃 (図 5)

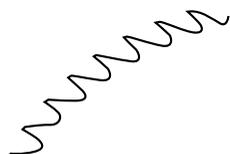


図 5

用途 木材の荒びきや木目にそった縦びきに適し、作業能率がよい。

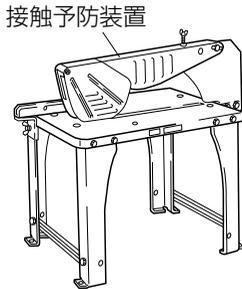
寸法	外径	アサリ幅	のこ身厚さ	歯数
C 13MA 用	335 mm	2.45mm	1.45mm	60 枚
C 15MA 用	382 mm	2.65mm	1.45mm	70 枚

4. 丸のこベンチスタンド (接触予防装置付)

⚠ 警告

- 丸のこベンチスタンドによる定置形作業の場合は、事故防止のため、接触予防装置が必要です。

定置形として使う場合、広い加工材でも安定した作業ができます。



PS 15-BS2

図 6

寸法	テーブル作業面	高さ
PS 14-BS2 (C 13MA用)	400 mm × 550 mm	400 mm
PS 15-BS2 (C 15MA用)	400 mm × 550 mm	400 mm

用 途

- 各種木材の切断

作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認……………

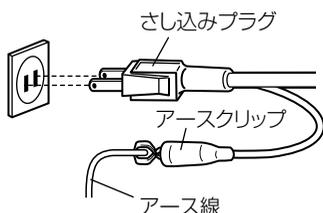
ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います）が設置されていることを確認してください。

また、本機は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流 15mA 以下、動作時間 0.1 秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためにアースされるようおすすめします。

アースをするときは、下記図のアースクリップをお使いになると便利です。

アースクリップ、アース線は、念のために異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、アースクリップと本機金属外枠との間の導通を確認してください。

地中に接地極（アース板、アース棒）を埋め、アース線を接続するなどの接地工事は、電気工事士の資格が必要です。お近くの電気工事店にご相談ください。なお、アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがありますので絶対にしないでください。



2. 継ぎ（延長）コード……………

警告

- 継ぎ（延長）コードは、損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎコードが必要なときは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

導体公称断面積	最大の長さ
1.25 mm ²	10 m
2 mm ²	15 m
3.5 mm ²	35 m

左の表は、使用できるコードの太さ（導体公称断面積）とその最大長さを示します。

必ずアース（接地）できる接地用の 1 心をもつ 3 心キャブタイヤケーブルをお使いください。

3. 作業台（木製）を用意する……………

⚠ 警告

- 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台を設けてください。また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。このような台がないと、けがの原因になります。

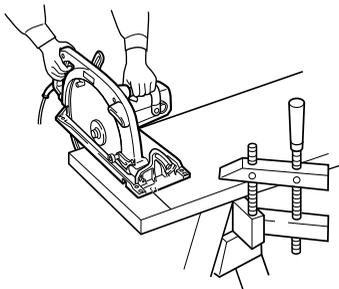


図 7 - 1

のこ刃は材料の下面より出ますので、材料は作業台の上ののこ刃を切断してください。

また、のこ刃および保護カバーが地面に接触しないように十分な高さ（のこ刃の出しろの3倍以上）にしてください。

切断する材料の切り残し側は、しっかり押えておくようにしてください。

この場合、材料をバイスで固定するなどしてしっかり押さえれば安全であり、両手で作業することができます。

（図 7 - 1）

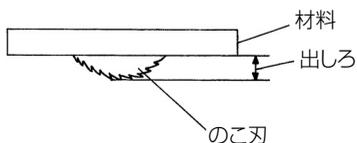


図 7 - 2

材料の切り落とし側が大きいときは、切断中に木材の重みでのこ刃がはさまりつけられないように切り落とし側にも安定性のよい台、または角材を設けてください。

作業台に角材などを利用する場合は、地面の平らなところを選び、角材を固定してください。

作業台がぐらぐらしていると危険です。

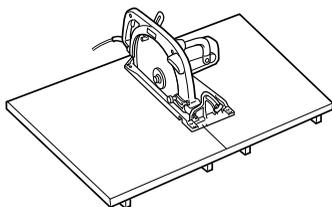


図 7 - 3

○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～5項については、さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる……………

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。

また、直流電源で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる……………

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源にさし込むと不意に起動し思わぬ事故の原因になります。スイッチはスイッチ引金(図1-1参照)を引くと入り、はなすと切れます。スイッチの引金を引き、はなしたとき引金に戻ることを必ず確認してください。

3. のこ刃の締付けを確かめる……………

工場で組立ての際は、すぐご使用できるように、のこ刃を締付けてあります。が念のため確かめてください。ボルトは時計方向に回すと締まります。

付属の片口スパナと両口スパナを使用して点検してください。

詳しくは19ページの「のこ刃の取付け・取りはずし」の項をご参照ください。

4. 切込み調整用ボルト、傾斜調整用 M8 ちょうボルト、傾斜固定用 M6 ちょうボルトの締付けを確かめる……………

警告

- 切込み調整用ボルト、傾斜調整用 M8 ちょうボルト、傾斜固定用 M6 ちょうボルトがゆるんでいると、けがの原因になります。十分締まっていることを確認してください。

切込み調整用ボルト(次ページの図8参照)、傾斜調整用 M8 ちょうボルト(次ページの図9参照)、傾斜固定用 M6 ちょうボルト(図8参照)がゆるんでいるとけがの原因になります。十分締まっていることを確認してください。

5. 切る前の調整……………

⚠ 警告

- 保護カバーは、絶対に固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。
この刃が露出したままですと、けがの原因になります。

(1) 保護カバーの働き

保護カバー（図 1 - 1 参照）は、身体がのこ刃に触れるのを防ぐものです。
必ずのこ刃をおおうように円滑に動くことを確認してください。
万一保護カバーが円滑に動かないような場合は、決してそのままお使いにならないでください。
この場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

(2) 切込み深さの調整

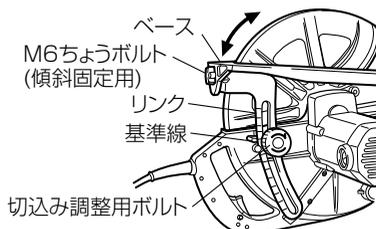


図 8

⚠ 警告

- 切込み調整用ボルトがゆるんでいると、けがの原因になります。調整後、十分に締付けてください。

切込み調整用ボルトをゆるめてベースを動かすと、切込み深さの調整ができます。（図 8）

(3) 傾斜角の調整

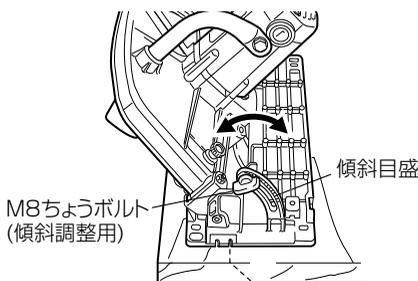


図 9

⚠ 警告

- 傾斜調整用 M8 ちょうボルト、傾斜固定用 M6 ちょうボルトがゆるんでいると、けがの原因になります。調整後、十分に締付けてください

傾斜目盛のところの M8 ちょうボルトとベース後部の傾斜固定用 M6 ちょうボルト（図 8 参照）をゆるめると、のこ刃をベースに対して最大 45° まで傾けることができます。（図 9）

(4) 直角度の微調整

本機は、ベースとのこ刃の直角度（90°）を角度調整ネジで、微調整することができます。調整しておくことにより、傾斜位置から直角（90°）に容易にセットすることができます。

工場出荷の際には 90° に角度調整ねじを合わせてあります。

万一、直角度が狂っていた場合は、次のように調整してください。

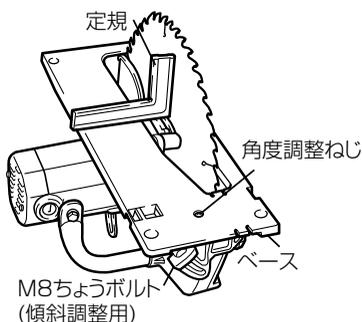


図 10

- ① 傾斜調整用 M8 ちょうボルト (図 10)、傾斜固定用 M6 ちょうボルト (図 8 参照) をゆるめます。
- ② ベース底面とのこの刃に定規を当てて角度を出し、M8 ちょうボルト、M6 ちょうボルトを軽く締めます。
- ③ 角度調整ネジの先端が角度指示板 (図 1 - 1 参照) に当たるまで角度調整ねじを回します。
- ④ 直角度調整後、M8 ちょうボルト、M6 ちょうボルトをしっかりと締付けます。

(5) 振れ止めシャフトの調整 (C 15MA のみ)

⚠ 警告

• のこ刃の回転中に振れ止めシャフトを調整しないでください。けがの原因になります。

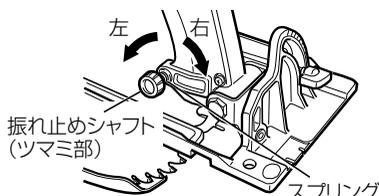


図 11

振れ止めシャフトは、のこ刃の振れを防止するものです。下記に従い調整してください。

- ① 図 11 の振れ止めシャフトツマミ部を右へ回転させれば、振れ止めシャフトとのこの刃の隙間は小さくなります。左へ回転させれば、隙間は広がります。
- ② 両側の振れ止めシャフトと、この刃の隙間は 0.2 ~ 0.3 mm (ハガキ一枚程度の厚さ) に調整してください。(図 12) 工場出荷時は 2 mm ぐらいの隙間に調整されています。
- ③ 振れ止めシャフトは樹脂でできていますので、使用していると減ってきます。振れ止めシャフトと、この刃の隙間が大きくなりましたら 0.2 ~ 0.3 mm の隙間に調整してください。
- ④ 振れ止めシャフトがこの刃まで届かなくなった場合は、振れ止めシャフトを新品と交換してください。この場合、必ずスプリングは付けてください。

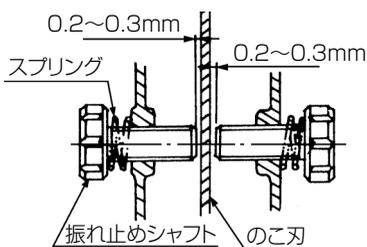


図 12

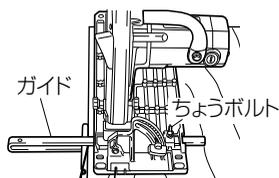


図 13

(6) ガイド (別売部品) の調整

ちょうボルトをゆるめ、ガイドを左右に動かして切断位置の調整をします。(図 13)

6. 電源コンセントの点検……………

さし込みプラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。
そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

7. ブレーキがかかることを確かめる……………

注意

- ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
機体を落としたりし、けがの原因になります。

本機はスイッチを切ると同時にブレーキがかかる構造になっています。ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。万一正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

切り方

警告

- 使用中、のこ刃が止まったり、異音を発したときなどには直ちにスイッチを切ってください。
- 切断中に本体をこじったり、強く押しすぎるとモーター部に無理がかかるばかりでなく、反発力を受け、けがの原因になります。まっすぐ静かに進めるようにしてください。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。
- 保護メガネを使用してください。
- 作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

注意

- 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。

注 • 切断を始める前に、のこ刃の回転が全速になるようにしてください。

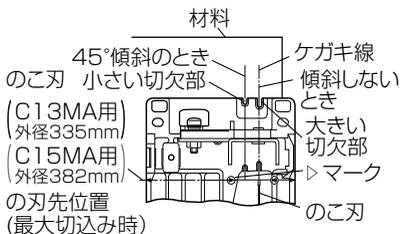


図 14 (上から見た図です)

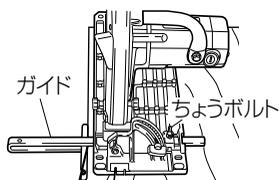


図 15 (傾斜しないとき)

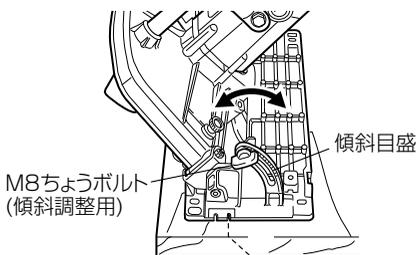


図 16 (45°傾斜のとき)

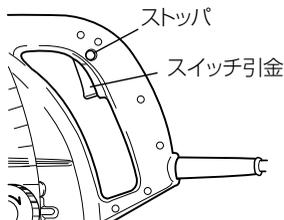


図 17

- (1) 材料の上に本体（ベース）をのせ、ケガキ線とこの刃とはベース前部の切欠部で合わせます。

傾斜させないときは大きい切欠部を、傾斜させるとき(45°)は小さい切欠部を目安にしてください。(図 14、15、16)

- (2) 本機のベースには、この刃の刃先を示す「▷」マークがついています。材料を切り始めるときの目安にしてください。

なお、「▷」マークは切込み量が最大で、ベースを傾斜させていないときの刃先位置を示します。(図 14)

- (3) この刃が材料に触れない状態でスイッチを入れます。そのまま本機をゆっくり前方に進め、切り終るまでこの状態を保つようにしてください。

ひき肌をきれいにするには一定の速さでまっすぐに進めてください。

スイッチは、引金を引くと入り、ストップ(図 17 参照)を押すと指をはなしてもスイッチは入ったままになっており、連続運転に便利です。

切るときは、再び引金を引くとストップは、はずれます。

注 縦びき作業をするときは、次のようにしてください。

- 角材の縦割り作業などのような切込みの深い縦びき作業では、モーターが過負荷になりやすいので、無理な使い方をしないようにしてください。
- 送り速度は 1.5 ~ 2.5 cm 毎秒が適当です。
- この刃は、側面が木材と摩擦すると熱のため、わん曲し、ひき曲りの原因になるので注意してください。特に木材をガイドに強く押しつけると、このような現象を生じやすくなるので、ガイドに木材が軽く接触する程度にして使用してください。
- 切込みの深い縦びき作業のように過負荷になりやすい作業では、モーターやこの刃が過熱されやすくなるので、ときどき空転させてモーターとこの刃の歯先を十分に冷却するようにしてください。

のこ刃の取付け・取りはずし

警告

●万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

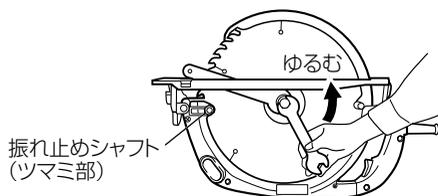


図 18

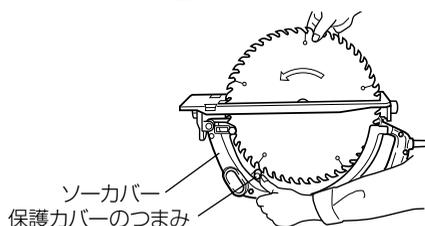


図 19

1. 取りはずし方…………

- (1) 切込み量を最大にし、図 18 のように丸のこを逆さにします。
- (2) 付属のスパナでボルトをはずします。(図 18)
- (3) C15MA の場合はソーカバー側に付いている振れ止めシャフトのツマミを動かして、のこ刃と振れ止めシャフトの隙間を広げてください。(図 18)
- (4) 保護カバーのつまみをもって、保護カバーをソーカバーの中に引込め(図 19)、のこ刃を取り出します。

2. 取付け方…………

警告

●付属の両口スパナ、片口スパナ以外の工具を使ってボルトの着脱をすると、締過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

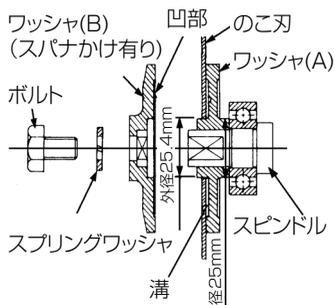


図 20

- (1) スピンドルやワッシャについている切りくずをよくぬぐい去ります。
- (2) 図 20 のように、ワッシャ (A) は溝のある側をのこ刃側にし、ワッシャ (B) は凹部側をのこ刃側にします。また、市販の穴径 25 mm ののこ刃は、ワッシャ (A) の溝のない側をのこ刃側にすることにより取付けることができます。

注 ●弊社指定の別売部品ののこ刃を取付けるときは、必ずワッシャ (A) は溝のある側 (25.4 mm) をのこ刃側にしてください。

- (3) のこ刃の向きは、のこ刃の矢印がソーカバーの矢印と一致するようにします。
- (4) ボルトは十分に締付けてください。
- (5) C 15MA の場合は、振れ止めシャフトの調整をしてください。振れ止めシャフトの調整は 16 ページ (5) 項をご参照ください。

定規について

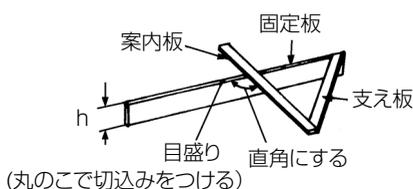


図 21

板材で図 21 のような定規を作ってご使用になりますと、長尺物の切断や、胴付き加工などに安定した作業ができます。

1. 作り方………図 21 参照

- (1) 案内板と固定板は直角になるようにしてください。支え板により、この角度が狂わないよう固定します。
- (2) 固定板の高さ (板幅) h は 60 ~ 90 mm にしてください。
- (3) 目盛のつけ方は**使い方の (3)** をご覧ください。

2. 使い方………図 22 参照

⚠ 警告

- 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台を設けてください。
また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの 3 倍以上にしてください。
このような台がないと、けがの原因になります。

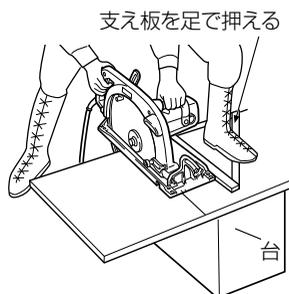


図 22

- (1) 適当な台を用意し、この上に加工材を置きます。定規の目盛りが加工材のケガキ線に合うようにして、固定板を加工材の側面に当てます。
- (2) 支え板を足でおさえ、丸のこのベース側面を案内板に当てて前へ進めます。
- (3) 目盛りをつける場合は、(1)、(2) と同じ要領で行います。すなわち
 - 加工材の代りに不要な木材を用意し、この木材に定規を当てます。
 - (2) と同じ要領で、丸のこのベースを案内板に当てて固定板に切込みをつけます。

保守・点検

1. のこ刃の点検……………

⚠ 警告

- 点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

のこ刃の切れ味が悪くなったのをそのままご使用になっておきますとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますから早めに目立てするか、新品と交換してください。

⚠ 警告

- 極端に切れ味の悪くなったのこ刃を無理して使うと、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。そのままお使いにならないでください。

2. カーボンブラシの点検……………

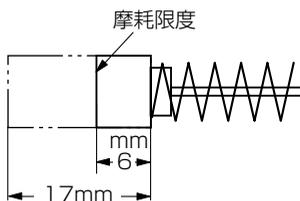


図 23

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度(6mm)ぐらいになりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしておいてください。

- 注** •新品と交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシをご使用ください。
指定外のカーボンブラシを使用するとブレーキがかからないことがあります。

交換方法

カーボンブラシは、マイナスドライバーなどでブラシキャップ(図1-1参照)をはずしますと取出せます。

3. 各部取付けねじの点検……………

各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら、締め直してください。
ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります。

4. 保護カバーの動作点検と保守……………

保護カバー（図 1 - 1 参照）は、いつも円滑に動作するようにしておいてください。なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。

5. 製品や付属品の保管……………

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- | | | | |
|---|--|---|---------------------|
| { | <ul style="list-style-type: none">○ お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所○ 軒先など雨がかったり、湿気のある場所○ 温度が急変する場所○ 直射日光の当たる場所○ 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所 | } | このような場所
には保管しない。 |
|---|--|---|---------------------|

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>